



# 市ノ池公園からのお知らせ



第58回高砂菊花展覧会 開催しました。  
33作品の出展があり、たくさんの方に見て  
いただきました。ありがとうございました。

令和7年11月2日に市ノ池公園キャンプ場  
で、わんぱく親子キャンプを開催しました。  
親子34名が参加し、テント設営、飯盒炊さん、  
ロープワークなど多くの知識を学びました。



## 植物等の展示会

※内容は変更になる場合があります。

展示会名	開催期間	共催団体	場所	時間
播州苔展	1月24日(土) ~1月25日(日)	アトリエWindWing	みどりの相談所 展示コーナー	10:00~16:50 (最終日は15:00まで)
市ノ池洋ラン展	2月7日(土) ~2月15日(日)	播磨ラン会	市ノ池公園 温室	10:00~16:50 (最終日は16:00まで)
春の山野草展	3月21日(土) ~3月22日(日)	山野草を楽しむ会	みどりの相談所 展示コーナー	9:00~17:00 (最終日は16:00まで)

## バラの棘

筆者は仕事でバラを管理している。園芸教室でもバラを取り上げることが多く、今出回っている園芸種は数え切れないほどだ。しかし、日本ではその園芸種を支えているのが、「ノイバラ」という原種である。今は、棘のない選抜されたノイバラが使用されているが、野山に自生しているノイバラを見ていると幹に鋭い棘がある。

ちなみに、日本には原種のバラが16種程ある。それぞれの幹に付いている棘を見ているだけでも面白い。バラにとっての棘は人間でいえば手の役目を果たしている。人は手や足を使って木に登るが、バラにとって他の植物の下で生活していると光が入らないため、生活の糧である光合成によって作られる栄養素が作られないと枯れてしまう。それに対抗するため、棘を使って枝を伸ばし他の植物より上に枝葉が出れば、バラたちも生活できるわけである。だから、何時も教室で口癖の様に言っている『良く日の当たるところに植栽して下さい』というわけである。

さて、棘は人間でいう手の役目と書いたが、実際ヤマイバラやテリハノイバラの棘を見ると、幹や葉の付け根に鋭い下向きの棘が付いており、それを利用してその他の樹上を制覇するように進化したのかも知れない。



また、次回も楽しみにお待ちしておりますね。

花の教室講師 高田 正